

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援BOXらじあぼ			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	令和7年2月17日		～	令和7年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月24日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な専門職や職歴のある職員が集まって支援に取り組んでいるので、様々な特性を持ったお子様への支援が可能である。それぞれの専門性や経験を活かし、より個々のニーズに合わせた活動やよりよい支援を行っていく。	ひとりのお子様に対して、ひとりの職員が担当するのではなく、複数の専門的な視点からお子様の状況や行動が分析できるように皆で話し合い支援を行うようにしている。	個々の専門的な知識の向上を図ると共に、新たな知識を取り入れる為、他事業所との交流や外部研修を取り入れていく。また、事業所内でも他職種と積極的に知識を共有していく。
2	活動スペースや職員数が十分に確保されており、個々の特性やニーズに応じた活動が提供できる。お子様のニーズや状況に合わせて、活動スペースや環境を柔軟に組み立て支援に取り組める。	日々の活動を振り返る中で、職員間で話し合い、お子様の現状に合わせて積極的に空間や物の配置を変更している。その日の利用児様の特性やニーズに合わせて環境を変更している。	更に自立支援や活動をしやすくするために、外部研修などで情報や知識を仕入れて、構造化や遊びに関する理解を深め、アイデアを広げていく。
3	地域の集団(保育所、幼稚園、こども園等)との併用が可能で、地域集団に所属しながら利用することができる。	送迎の際に所属する園などの職員とお子様の様子について情報共有をし、地域集団の中で必要な取り組みや事業所でできる支援を考え取り組んでいる。	関係者会議などを通して、事業所を地域の園などに広く理解してもらい、よりスムーズな情報共有や連携を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	担当者会議への出席者や送迎者がある程度、固定されてしまう為、保護者様と面識の薄い職員がでてしまう。	諸事情により、担当者会議への出席、送迎担当の職員が限られてしまう。	多くの職員が保護者様と関係が築けるように、面接への同席の機会や会議への出席、情報発信の方法を検討していく。
2	保護者同士の交流やペアレント・トレーニングやきょうだい児、レスパイトなどの家族支援を行う機会がない。	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型の事業所であるので、時間を確保することが難しい。	家族支援に関する情報を集め、現状の中でできることを検討していく。
3	お子様の支援に関する情報共有は日常行っているが、その他(防災や家族支援の情報など)の情報に関しては、その都度、必要に応じて発信しているので周知度が低い。	ご質問や必要性に応じて、その都度お知らせを配布したり、連絡帳などで周知しているが、定期的に決まった配布物はない。	どの程度の情報を発信するか、発信の方法、外部の家族会や研修会などの情報をどの程度、どこまで発信するかなどの検討が必要と思われる。ホームページ等を上手く活用していく。